

読書活動推進講座

4月14日（火）15：30～

野洲図書館にて

市内校園20名参加

野洲図書館の早田ひとし館長のご挨拶では、今年度から導入される移動図書館（車）と学校司書が1名増えたこととお話いただきました。公共図書館と学校図書館の充実が進められていきます。

次に、司書の皆さんの紹介がありました。

- ・乳幼児・小学校担当の梅原彩花さん
- ・小学校としょかんBOX担当の宇都宮香子さん
- ・中学校・高校担当、中学校としょかんBOX担当の八代恵実さん
- ・学務課兼務・学校図書館担当の谷口雪子さん
- ・中学校・高校担当の大崎優美さん
- ・バリアフリーサービス担当の林陽子さん
- ・学校司書の高木さん、谷口さんです。



最初に林司書が、『読書バリアフリーについて』お話しされました。様々な子どもたちの有効な図書を紹介や読書支援サービスを行うことが読書バリアフリーです。

子どもはみんな支援が必要という考えのもと、必要な助けが得られれば「おもしろくない」「つまらない」から解放されます。そのために子どもに合った本やツール、読み方があります。感触でも楽しめる布の絵本やさわる絵本、子どもに合わせてお話を自由に変えられる字のない本、目の不自由な人向けの凹凸がついた本、読むことが苦手な子ども向けのLLブック、大きな文字の本、リーディングトラッカー、そしてマルチメディアディスプレイなど多くを紹介していただきました。詳しくは、各校園に配付いただいた資料をご覧ください。

次に、梅原司書から、「野洲図書館利用案内」について話をさせていただきました。資料の団体貸し出し、司書の学校・学級訪問、子どもたちの図書館見学などの案内をしていただきました。

最後に小中学校の先生方向けに、今年度の「学校図書館利用案内」を谷口司書から話していただきました。人権学習プランの冊子関連図書、図書館ボックス、お話し会、ブックトーク、図書館見学、学習展示（昨年度は祇王小学校が学習の成果を披露されました）など、詳しくはこちらも資料をご覧ください。

図書担当の先生や図書ボランティアさん、学校司書の皆さんの連携が読書活動の推進に大切になってきます。情報入手も含め、図書館の利用がこれまで以上に高まることが期待されます。

参加者の感想

- ・様々な絵本のツールについての知識はなかったので、とても良い学びになりました。
- ・季節や行事にあった図書リストがあるのはありがたいので利用したいと思います。
- ・どの子どもにも楽しめるように、大型絵本やお話し会など、また、利用させていただきたいです。
- ・職員研修で、読み聞かせを指導してほしいと思いました。
- ・教科の学習で、柔軟に対応していただけるので、とても心強いです。
- ・リーディングトラッカーを作ってみたいです。校内でも広めたいです。



研修の様子



読書バリアフリー



図書館利用案内



学校司書の紹介

まなび野洲チャレンジ! 43

今回はこの問題です。正しい答えの番号はどれでしょう。
答えは、最下段に載せています。



《〇〇パーク 吉川》

野洲にはこの花の名前の地域や浜の名になっているところがあります。
市の花にもなっているこの花とは何でしょうか。

- ①ラベンダー ②りんどう ③菖蒲 ④牡丹



『自走する学級の作り方』

高森 崇史 著 出版社 学芸みらい社

仕事の「ゆとり」が学級経営で生まれます。重版続出著者の学級づくりがわかる本です！

最近では、「子ども主体の授業」が唱えられており、「自由進度学習」なども一例として注目されています。しかし、子ども主体の授業を行った結果、学級の統率が取りづらくなり、学級崩壊を起こすケースも少なくありません。そこで本書では、「子ども主体」だけでなく、「落ち着いた学級」「自走する学級」を全面に押し出し、12ヶ月の各月ごとに学級づくりと授業づくり、仕事術の3つで紹介しています。すべての実践は著者のVoicyとも連携しており、より気になるものは「耳で聞く」こともできます。フォロワー3万人以上のインフルエンサー著者の新しい学級経営本です！

*Voicyとは、厳格な審査を通過したパーソナリティが発信する、国内最大級の音声プラットフォームです。

『1年間の学級経営』

天野 翔太 著 出版社 学芸みらい社

教師の在り方がガラッと変わる、令和の子どもたちに向けた「学級経営」が分かる！

最近の子どもたちには、集団において「他者の目を気にして自分の思いを十分に語りきれない」といった課題があり、主体的・対話的で深い学びを日々の授業の中に組み込むためにも改善が求められています。その原因は「個人が感じる集団への安心感」「信頼感の醸成が不十分であること」であり、集団からの同調圧力等から解放される「心理的安全性」の高いクラスづくりで解決できます。本書では、「心理的安全性」の理論をエピソード仕立てで紹介するとともに、1年間の軌跡を追う形で、学級経営実践を紹介しています。重版が続出する著者の期待の1冊です！